

加工食品分野における物流標準化アクションプラン 第3回フォローアップ会
議事概要

1. 日時

令和5年10月23日（月） 15:00～16:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館共用会議室3A（Teams併用）

3. 出席委員

根本敏則委員（座長）、小谷光司委員、平智章委員、高岡美佳委員、成瀬慎一郎委員、深井雅裕委員、前田賢司委員、溝内順一委員、明貝裕之委員、村上達則委員、森正子委員、藏谷恵大委員、五十嵐課長補佐（渡邊顕太郎委員代理）、中野剛志委員、平澤崇裕委員、小熊弘明委員、仲澤純委員

4. 議事概要

【長井審議官 冒頭挨拶】

- 物流の停滞を招いてはならないということで、関係省庁と一体となって閣僚会議を立ち上げ、総理をリーダーとして政策パッケージを6月にまとめ、10月頭には緊急パッケージとしてまとめた。緊急は政策パッケージの中で特に前倒しで取り組むべき重要なものということで整理したものであり、経済対策にもしっかりと盛り込み、その実施を急ぐ。
- 物流を停滞させないというところを考えると、ステークホルダーの皆様がどうやって連携の下に物流を効率化していくのかということは大事な課題である。発地から着地まで1台のトラックが運んでいくということはこれから現実的に難しいわけで、ステークホルダー間の連携が要る。そこにはまさに何らかの標準化が必要だということと思っている。
- この加工食品分野というのはトップランナーとして走っていただいております、今日も

4項目の標準化の取組についてご発表いただくが、こういった取組をいろいろな分野に広げていく必要がある。皆様方の取組を横展開していくことが政府の役割だと考えている。

- 今日、傍聴の方がたくさんいらっしゃるということは皆様方がトップランナーである証左だと思っているが、これでおしまいということではなくて、今日のフォローアップ会を発射台として、さらに業界の中、さらにはそういった業界分野を超えた新しい連携のきっかけになるように、忌憚ない御議論をいただければ幸いである。

【根本座長 冒頭挨拶】

- 物流革新緊急パッケージに「標準仕様のパレットの導入」や「物流データの標準化、連携の促進」ということが盛り込まれた。この段階でこういう発表があったということは大きな意味を持っていると思う。補正予算、それから来年度予算に何らかの形で反映されるのではないかと期待しているところ。
- これまで標準化ということではトップランナーの加工食品分野においては、政府の支援もてこに、さらに物流標準化を推進していただき、今後もトップランナーとして走り続けてほしい。

【委員からの主な意見】

- 日本即席食品工業協会からの発表で、まだパレット化されていない会社がほとんどで、11型か12型にまとめるという話があった。官民物流標準化懇談会 パレット標準化推進分科会のほうでは11型を推奨しており、まだパレット化されていないのであれば11型にまとめたほうがいいのではないかと。これは何か積み付けの問題やトラックのサイズの問題で2つ標準を並べているのか。
- これから日本は危機的な状態になる。そのときに規格がなるべくシンプルにひとつにまとまっていったほうがパレットの回収等の点でいいのではないかと。全体最適、それも環境問題と同じように企業の社会的責任の一環として経済的などところ以外のところも考えていく必要がある時期だと考えている。

- 一つに統一したほうが効率化されるのはまさしくそのとおりだが、即席めんの多くの商品が最も効率よく運べるのが実は12型である。まずは大きな商品をうまく積み込めるような形で12型をしっかりと使いたいといった声も多く、この2つにまとめさせていただいている。将来的には統一化を図っていく方向性というのはしっかりと考えていきたいが、当面は11型と12型、この2つに統一を図って進めていければ。
- 現在12型を使っているが、パレットサイズは何でもいいと思っている。パレット化や標準化が目的ではなく、物流の効率をいかに上げるかを目的と考えたときに、いかに物流を平準化するか、もしくは重軽の組み合わせで積載率を容積と重量で最大化するかを考えると、倉庫もトラックもものすごく平準化できて最大限性能が活用できる。既にビールパレットと12型で組み合わせているが、特に問題は生じていない。
- パレットサイズが違うからといってトラックに積めないことはまったくなくて、実際積み込みは全く問題なくやっていただいている。物流の現場ではパレットのサイズ然り、カートや折りコンなどバラバラであるにも関わらず、皆さん上手に保管、回収、洗浄がなされている。特に1種類に限定する必要性を我々は全く感じていない。
- また、サイズの問題でオーバーハングすると潰れてしまって商品の品質がなかなか担保できないことがある。標準化して輸送品質が落ちるということは容認できず、いろいろなことを考えた中で、今のところ12型と11型混在で行こうというのが、我々の業界の合意事項となっている。
- パレット標準化推進分科会の資料では、パレットが着荷主で使われ、その度にレンタルパレット事業者に戻るスキームになっているが、メーカーから卸だけでなく、最下流の小売の物流センターからメーカーのほうにパレットが戻るものがあってもいいのではないか。サプライチェーン全体で使い、途中では返さないというのをもう少し強調してもいいのではないか。
- パレットには将来的にタグやバーコードがつくこととされている。納品伝票エコシステムや物流標準ガイドラインの中にパレットのIDが入って、それで費用負担なども一緒に管理できるようにするというのは可能なのか。
- 現在、3パターン of 納品伝票のデータ連携の粒度を想定している。届け先単位とトラ

ック単位、パレット単位である。パレット単位で納品伝票のデータを送るとなると、GS1標準にあるGRAIを使ったり、パレットに荷物を特定するためのシリアルコードを振ったりしてパレットの存在と荷物をセットにやり取りして、そこで受払が管理できれば、同じようにパレットの貸し借りの情報と同じ形でデータが取れるので、そちらにも合わせて活用ができるだろうと考えている。

- また、パレット情報だけを納品伝票にくっつけてやり取りをするというようなものも考えているので、そこは将来的にはパレット情報と上に載っている商品の情報とをしっかりと連携して、データで受払が管理できるという方向が出てくるものと考えている。
- 納品伝票の電子化を進める前段階で紙伝票にするというところで、大塚倉庫さんで統一したものと、即席めん業界のガイドラインで定めた紙伝票のフォーマットは同じものなのか。それともそれぞれでつくっているのでは全く違う内容なのか。弊社ではまだ複写式の伝票を使っており、これから紙伝票を進めていくのだが、どの方式に合わせていくのが一番標準的なのか。
- 当社ではTSUNAGUTE社の統一伝票を採用している。業界全体として、まだ伝票のフォーマットはバラバラで、各社各様になっている。ただ、データ連携をしていく上で、どのデータでどのデータ項目を揃えたらいいのかというのは検討されていたので、データに移行する前の紙伝票の統一化というところに関しては、どこかが使っているものを採用したらいいのではないかと考えている。データフォーマットが標準化されていれば紙伝票からデジタル化に進みやすいので、まず重要なのが統一化、その上で標準化されてデジタル化をしていくのが最適なのではないか。
- 統一の話というのは最初に必ず出てくる。伝票のレイアウトというよりも項目、お互いに意思疎通するために何が必要か、ということが重要なので、見た目のレイアウトは各社各様でもいいかなという話になりつつある。物流情報標準ガイドラインに則ってデータがやり取りできるように、フォーマットや項目の過不足というような話を行っているところ。

- 標準化によってどのくらいのコストがかかって、どういう効率化が図られるのかと
いったところが明確でないことが課題。コストと効果がしっかりと我々の腹に落ちる
ような実証事業の結果がないという印象。
- それなりの大きな企業、大きなかたまりで実際にこういう成功事例がある、社会実装
している、という段階じゃないとなかなか踏み込むことは難しい。
- 関係者の範囲をどこまで捉えるべきなのか、それによって得られるメリットは物流
全体の中でどういうところにあるのか、というところをにらんでいただき、また、そう
いう物流全体の流れの中でのコストベネフィットを成功事例から横展開していくこと
が必要であることを学んだ。引き続き、政府としてそういうところをしっかりとやってい
きたい。
- アクションプラン策定から3年半でそれぞれいろいろ取り組む中で課題も見えてき
た。 こういう場で情報共有を進めて、標準化を強力に進めていきたいと思うので、今
後とも皆様のご協力をお願いしたい。フォローアップ会を継続していきたいと思うので、
よろしくをお願いしたい。

以上

(文責 事務局)